



道政かわら版

RYUICHI KITA DOUSEI KAWARABAN No.19

迎春



2015 新年あいさつ

北海道議会議員
喜多龍一

あけましておめでとございます。昨年は大変お世話になりました。

昨年を振り返ってみれば、年明け早々の月に帯広市長選挙への出馬要請、年末の突然の衆議院解散総選挙とさまざまなことがありました。帯広市長選挙、帯広市議団を中心とする自民党帯広支部から三度にわたり出馬要請をいただきました。一方で管内の多くの方々からご声援をいただきました。お怒りの言葉が寄せられ、郡部の皆さんと共にあるなど大変うれしく、有難いことでありました。

改めて思うことは、「十勝は一つ」というスローガンが選挙の時などに叫ばれますが、実際そういう姿勢が、取り組みが、これまでどれほど見られたか。公共工事や農林水産物の生産や資材機材、消費など、ひと・モノ・経済面として十勝社会全般にわたり、「郡部があつて帯広があり、帯広があつて郡部がある」ことをもつと鮮明に意識化すべきだと思えます。そのした観点で要請してきた市議団の皆さんの今後の活躍を期待するものです。

私は全国議長会を代表し国の地方制度調査会の大都市制度部会で意見を聴取された冒頭に、「水・食糧・電力など大都市が一人で生きてきたか、今後とも一人で生きていけるのか」という趣旨の発言をし、後日改正案にそ

うした観点が前文に書き込まれました。互いを認め合い協力しあう姿勢が今日本地方に求められていると思います。

さて、昨年は国立社会保障・人口問題研究所がまとめた「日本の将来推計人口」に基づき、政府の日本創成会議「人口減少問題検討分科会」での議論などから、人口急減社会への警鐘が大きく打ち鳴らされた年でありました。「日本は二〇〇八年をピークに人口減少に転じ、手を打たなければ二〇二〇年に二億二八〇六万人あつた総人口は二〇五〇年には九七〇八万人、今世紀末の二〇〇年には四九五九万人と、わずか二〇〇年足らずで現在の



自民党移動政策懇談会



自由民主党北海道第11選挙区支部総会

約四〇%、明治の水準まで急減すると推計されています。小児化に伴う人口減少は同時進行した長寿化により見かけ上隠れ、国民の目は高齢化対策に向けられてきた。今高齢者も多くの地域で減少し始め「人口減少」という問題が姿を現すに至り、もはや目をそらせない」と指摘しています。また、面積で全国の三六%を占めるに過ぎない東京圏に、全国の四分の一を超える三五〇〇万人弱が住み、大学生の四割以上が集中するなど、地方からの人口移動が大きい一方で、住宅事情など東京圏の出生率の低さが国全体としての人口減少に拍車をかけ、特に道内の札幌への人口移動は全国からの東京圏への移動の率よりも高いと報告されています。

〈次頁へ続く〉



昨年九月政府は人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に政府一体となつて取り組み、各地域がそれぞれの特徴を生かした自律的で特徴的な社会を創生できるよう、内閣に総理を本部長とする「まち・ひと・しごと創成本部」を設置、地方創生担当大臣を置きました。

私は「地方創生」を国の政策課題の大柱の一つに掲げたことを高く評価しています。年末の衆院選の中で、野党から法案に具体の中身がないなどの批判がありましたが、法案に具体の中身を書き込むことはないし、具体の提案を考へお金や制度改正などを取りに行くのは地方であります。

国は年末に人口減少に立ち向かうための「長期ビジョン」と地方創生のための「総合戦略」を策定し、この年明けの補正予算から執行されることが予測されます。また、一七年度内に都道府県版及び市長村版の「地方人口ビジョン」と「総合戦略」策定が求められています。とりあえずとれるものから取りに行くことになりませんが、ここは道も市町村もそれぞれの議会も、北海道の或いはまちの長期的視点に立った骨太の政策議論と具体の取組みについて、大いに考へ議論して行くところだと思います。

先日私は、「北海道における地方創生の道筋を大胆に切り開くためには、国土の二%を占める広大な北海

道を、地域の持つポテンシャル(潜在力)、産業・社会構造、気象条件・災害など、地域の特性を踏まえたきめ細かな地方創生・地域創生をするためにも、北海道をいくつかに分割する分県を検討しよう、北海道における地方創生は分県、この道しかない!と話していたら、目が覚めました、夢の中でのことでした。道知事も掲げてきた道州制という広域行政・地方分権の旗を地方団体が総じて否定した今、私は大いに議論する命題だと感じるし、地方の自立的分権にとり、何かが見えてくるかもしれません、大胆な議論が必要だと考へます。

十勝の開拓の歴史は他の屯田兵を核とした官主導ではなく、民間の移民団・開拓団の手で開拓され今日を築いた地であることから、十勝のアイデンティティーは開拓者精神＝フロンティアスピリットであります。かつて十勝人の気風を称して「進取の気風」と言われていた時代がありました。この十勝は、北海道に輝くダイヤモンドの位置に一番近いところにあります。次代を担う若い人たちに何を残していけるかというのを、絶えず自問しながら今年も頑張りますので、変わらぬご指導をお願い申し上げます。



ハワイ州上院議員等と道議との懇談会



北海道議員 喜多龍一 政経セミナー



新年のご挨拶

喜多龍一 十勝連合後援会
会長 千葉 幹雄

後援会の皆様、新年明けましておめでとうございます。まずもって、日頃、当連合後援会にご理解・ご協力を頂いていただきますことに心からお礼申し上げます。

時の経つのは早いもので、平成七年四月道議会に送って以来五期二十年が過ぎようとしています。その間、喜多道議は、我々の期待通り、いやそれ以上の活躍をされました。

そこには、道議本人のためまぬ努力がなされたこと、天性の政治家としての資質があったのでしよう。

我々の住む、この十勝・北海道、まだまだ懸案事項が山積しております。

議長経験者として、今後、その発信力が増し政治家として円熟期を迎えます。

そういった、政治家、喜多龍一を皆様と一体となり、支援して行きたいと思っております。

今後とも、道議・当連合後援会に対して更なるご支援を心からお願ひ致しまして年頭のご挨拶とさせて頂きます。

道、モンゴルと経済交流へ

道は、経済成長が著しいモンゴルとの経済交流を深めるため、自治体や民間団体などにも連絡会議を日に設立する。モンゴルでは契機に近い北海道に対し、建設、農業分野での経済協力への需要が高く、北海道として商機を掴む方策を探る。昨年9月、日本とモンゴル両政府は「戦略的パートナーシップ」の枠組みで、技術の共有を進める方針が盛り込まれた。北海道は既に、滝川市が11年からモンゴルの日本・モンゴル中期行動計画を結び、2017年までの4年間で政治や安全保障、経済の連携強化を図るとした。この中で北海道は日本の自治体として唯一名前が挙がり、農業や牧畜業、寒冷地

自治体、民間 10日会議設立

建設や農業 商機探る

道は、経済成長が著しいモンゴルとの経済交流を深めるため、自治体や民間団体などにも連絡会議を日に設立する。モンゴルでは契機に近い北海道に対し、建設、農業分野での経済協力への需要が高く、北海道として商機を掴む方策を探る。昨年9月、日本とモンゴル両政府は「戦略的パートナーシップ」の枠組みで、技術の共有を進める方針が盛り込まれた。北海道は既に、滝川市が11年からモンゴルの日本・モンゴル中期行動計画を結び、2017年までの4年間で政治や安全保障、経済の連携強化を図るとした。この中で北海道は日本の自治体として唯一名前が挙がり、農業や牧畜業、寒冷地

北海道新聞 平成二十六年二月七日



もみじクラブ新年の宴



鹿追駐屯地 中村司令 表敬訪問

2014年
活動写真
・新聞記事



中足寄花見



十勝活性化期成会総会



十勝連合後援会総会



芽登牧場まつり



高橋知事と 上土幌町 ドリームビル

喜多氏6選出馬表明

道議選

【特別】自民党の喜多龍 連合後援会千葉幹事会長「道議選」2014年5月の総会の上で、来春の道議選に6期目を目指して出馬の意向を表明した。喜多氏は既に町内地区を皮切りに支援者訪問を始めており、「議長経験者としてのキャリア、そして力を、地域のために十分に還元したい。来年の統一地方選挙に向け、力添えを」と述べた。喜多氏は2011年5月から13年6月まで道議会議長を務めた。と述べ、今年予定している喜多氏の政経セミナーへの参加協力などを要請、承認された。（佐藤つづみ）

十勝毎日新聞 平成二十六年四月七日

2年目がスタート

喜多氏と意見交換

ひろお未塾

【広】町がまちづくりを担う若者を育成する「ひろお未塾」(塾長・村瀬優町長、塾生26人)の2年目が12日、スタートした。第8回目の今回は町コミュニティセンターで塾生約20人が同町出身の喜多龍(道議)と「広の未来」について語り合った。同塾は町内在住の20~40歳の有志を対象にした、まちづくりのために必要な知識や技術を養う町主催の人材育成講座。2年間で全14回、今回は行動力を養うための講座と意見交換会の2部構成で行った。喜多氏は1952年に町音調津に生まれ、95年に道議会に初当選して現在5期目。2011年5月から2年2カ月、議長を務めた。塾生らとリーダーシップ講座や人前で話し方などについて語り合った意見交換会で喜多氏は「リーダーシップに必要なことは決まると、責任をとることとアドバイスしている」と述べた。

次回は5月18日、コミュニティセンター(調音)で「発言促進力」をテーマにした学びの場となる。

(関根弘貴)

十勝毎日新聞
平成二十六年五月十七日

政治 スポーツ

◆喜多龍一 道議十勝区
が来社
16日、道政報告のため十
勝毎日新聞社を訪れた喜
多龍一を、記者が撮影し、



ト誘致について、北海道
観光の住む風景と、観光
振興で雇用の安定を図つて
いきたいとの考えのよすが
が、カシノを取り入れるこ
とよりリスクもあり、(木道
観光には)あまりなじまな
いという慎重な見方を求めた。
また、現在地を候補地
に改築が計画される帯広市
総合体育館では、十分な大
会などが行われると決意
(きま)あいで、(道議38号
など)が詰め合ったという問
題もあり、本道で、(現地改革)あり
きであることなどを抱い
ているなどとした。

十勝毎日新聞
平成二十六年六月二十六日

政治 スポーツ

◆喜多龍一 道議十勝区
野遊会
22日、幕別町内の幕別運
動公園内で開かれた。
地域後援会単位で行つて
おり、この日は中央幕別後
援会(有澤章会長代行)主
催。110人余りが参加し
た。



と訴えた。また、道東道
寄、陸別小別別間や帯広・
広尾自動車道の大樹・広尾
間の整備に向けた新たな動
きにも触れ、「まちの将来
が変わる。長期的展望に立
つて考えるべき。国や道と
の懸け橋として協力した
い」と述べた。写真。
冒頭に有澤会長代行があ
いさつ、岡田和夫幕別町長
古川稔町議会議長、千葉幹
雄十勝連合後援会会長が祝
辞を述べた。

自由民主

LIBERAL & DEMOCRATIC



発行所
自由民主党本部
郵便番号100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
振替口座 東京00180-1-19518

自由民主党ホームページ URL <http://www.jimin.or.jp/>



NEEDS 工場視察



道民栄誉賞 広尾町出身 志村選手

十勝毎日新聞 平成二十六年八月二十六日

政治 スポーツ

◆喜多龍一 道議十勝区
政経セミナー
25日午後、十勝連合後援会
グランツウリオホテルで開
かれた。
実行委員会(実行委員長
・千葉幹雄十勝連合後援会
長、主席、中村裕彦院議
員、道4区や管内町市長
農業・商工会の代表ら)が来
賓。

場、「たかじんのそごまで
言う委員会」にキョウ
出演している加藤清隆・
時事通信社特別解説委員
加藤氏に講演した。
加藤氏はロシアのクリミ
ア侵攻や中国の南シナ海へ
の強硬姿勢の背景には、オ
ペラに「慰安婦、売春婦は
確かにいたが、当時はかな
り高額の報酬を得ており、
軍が強制的に処方もない
論を展開した」と写真。

ハマ米大統領の「アメリカ
はもはや世界の警察官では
ない」との発言があったな
どと指摘。「日本も向があ
った場合、自分の手で自国
を守るしかない」と訴えた。
また、朝日新聞の従軍慰
安婦記事取り消し問題に関
しては「慰安婦、売春婦は
確かにいたが、当時はかな
り高額の報酬を得ており、
軍が強制的に処方もない
論を展開した」と写真。



中川ゆうこ林産後援会総会



まくべつ夏フェスタ



足寄町稲牛花見



アイヌ刺繍展 山本みいこさんと



オールジャパンパッチ選手権



喜多龍一女性の集い

我輩は秘書である

新語流行語大賞から書き始めようとしていたが、バカバカしくなりました。なぜなら、「なぜ戦車をつくることは簡単で、学校を建てることは難しいのか」という、十七歳の少女の力強いスピーチが心に響いたからです(正確には字幕が響いた)

日本人三人もノベル賞を受賞した。偉大な功績であり世界に誇るものである。生まれた国や受賞分野が違えば比較出来ないが、どうしてもマモラさんと三人(家族も)は別々の世界の人間に見えてしまう。

比較ついでに、我が国の教育環境はどうかと思つたが、これも比較出来ません。思まれますが、中では悩みや問題を抱えている子供たちがいます。家庭で解決できない時には、地域や行政が関わり痛ましい事故が起こらないよう国にすることを願っています。

教育環境もそうです。世の中は常に良くも悪くも変化を続けています。特に国政はコロコロと仕組みを変える。それに遅れることなく、地域にとって有益となる道を示すのが地方議員の役目なんですよ。まさに地方創生は地方を良く知る地方議員の力がためされる総合的な仕組みです。喜多道議に期待したいです。

その喜多道議も議員生活二十年を終えようとしています。この先、どう変化するのか。この先、最後の最後まで見届けたいとダメ(バ)タメタメ

編集後記のかわり

喜多龍一のホームページも是非ご覧下さい。

<http://www.kiryu.yu.com>